

GPT-6 Astra時代の知財業務：コパイロットから「自律型エージェント」への転換

BEFORE: GPT-5.6 Sol (AI支援型コパイロット)

AFTER: GPT-6 Astra (自律型エージェント)

性能の劇的進化と実務へのインパクト

複雑な事務ワークフロー能力が約2.3倍に向上



AutomationBenchスコア急上昇、
複雑な知財事務の自動化が現実味

100万トークンの長文脈精度が96.3%に到達



情報の落としが削減

主要ベンチマーク比較 (GPT-5.6 Sol vs GPT-6 Astra)

OSWorld 3.0 (GUI操作能力)	65.7% → 72.6%
AutomationBench (ワークフロー)	18.1% → 41.4%
ハルシネーション率 (内部評価)	12.2% 4.2%

パラダイムシフト：
AIによる部分的な支援から
一貫通貫の業務遂行へ

AIエージェントが
案件を最後まで進め、
人間が統制する

「一文を書く能力」から「案件を完遂する能力」へ



新時代の知財オペレーティングモデル



人間：承認者・統制者
AIが進行し、人間が統制する
構造への反転



調達NPI:
トークン単価 → タスク単価
検証済みの相対タスク1件
当たりのコストで評価
(S/validated-IP-task)



「思考の監査」ではなく
「行動と証拠の監査」
行動と証拠のログ (Provenance):
検索ログ, 参照原文, 承認者ログ
AIの権限ではなく、ログを証拠として重視



人間がAIに
断片的な指示を
出すモデル

複雑な事務
ワークフロー能力



AutomationBenchスコア:
低い自動化率



「一文を書く能力」
人間の事業者提示による
情報の落しな事

100万トークンの
長文脈精度



情報の落としが発生しやすい



断片的なタスク実行